

— 助 成 事 業 —

東邦銀行教育・文化財団では、文化とスポーツの振興を図るため、地域に密着した活動をする団体に助成を行っています。今回は地域の活性化に貢献する文化活動、喜多方市関柴町「下柴獅子団」の活動をご紹介します。

30年度助成団体「地域の活性化に貢献する文化活動」

助成団体 下柴獅子団（喜多方市関柴町） 団長 小林 重平

下柴獅子団は相互の親睦を図り、伝統的な彼岸獅子踊りを受け継ぎ後世に伝えることを目的としております。

活動内容 会津地方に伝わる「彼岸獅子」は春の彼岸に町を目抜き通りの商店街などに出かけて門付けして舞います。獅子は「三獅子舞」の名のごとく「大夫獅子」「雌獅子」「雄獅子」であります。

主な行事 毎年3月彼岸の頃、喜多方市内を回りお彼岸まち踊りを行っています。他のイベントでも舞を披露しております。

下柴彼岸獅子の由来 下柴彼岸獅子舞ホームページより一つには、下柴地区に伝わるものは、天正二年（1574）、この村に悪疫が流行し、人々が困っていると、どこからともなく「異人」が現れて、「神を拝し、獅子舞を彼岸に舞えば、災難は必ず免れるであろう」と告げたので、獅子舞を始めたといわれています。また、下野の国（栃木県）河内郡上河内町関白から移り住んだ古橋覚（角）太夫から獅子舞を伝授されたという伝えがあり、その覚太夫の墓といわれる五輪の塔が現在、下柴地区の安楽寺墓地に残されています。

演舞会風景



お彼岸まち踊り

